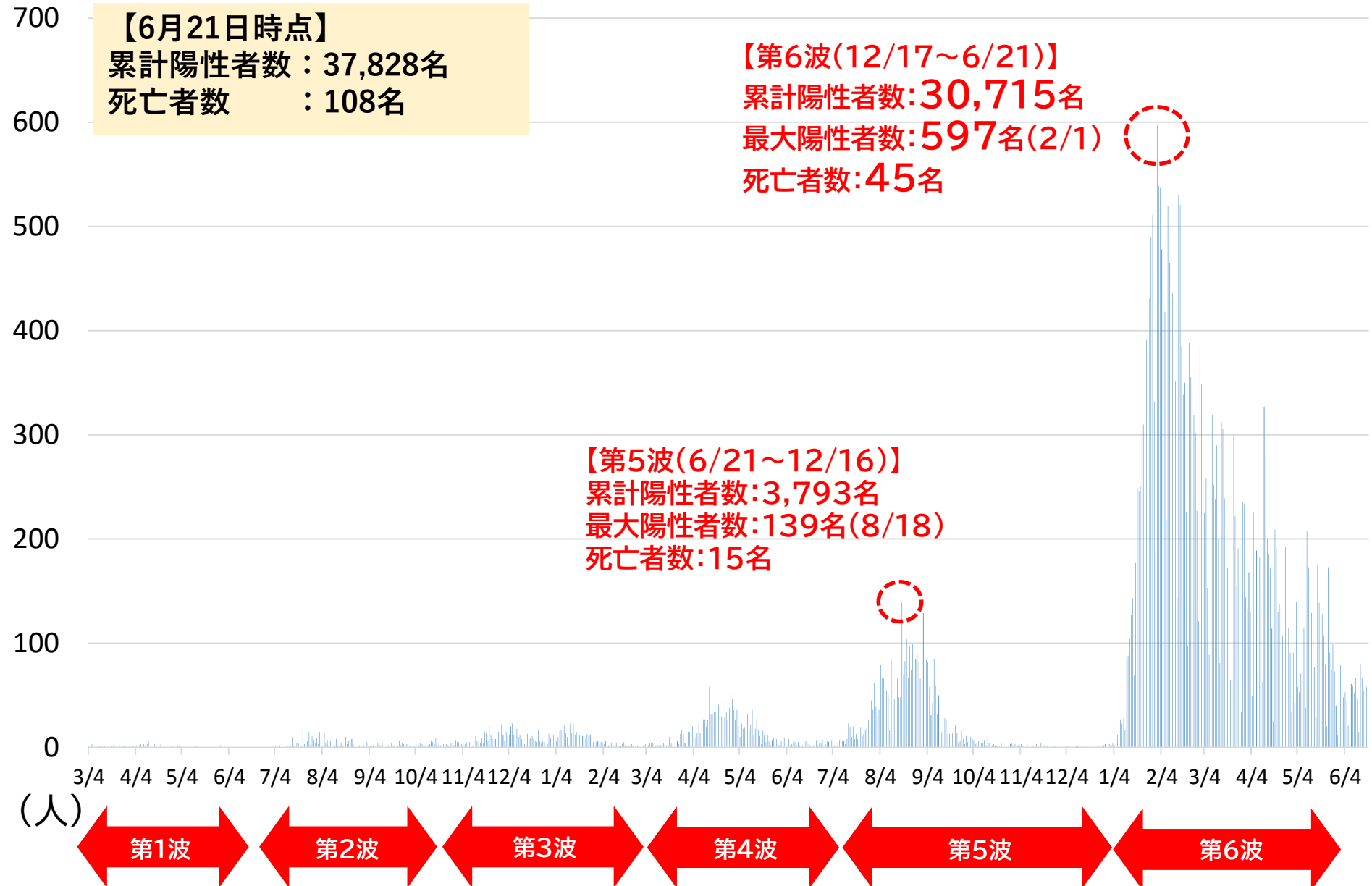


新型コロナウイルス感染症に対する主な取組と 今後の医療体制について

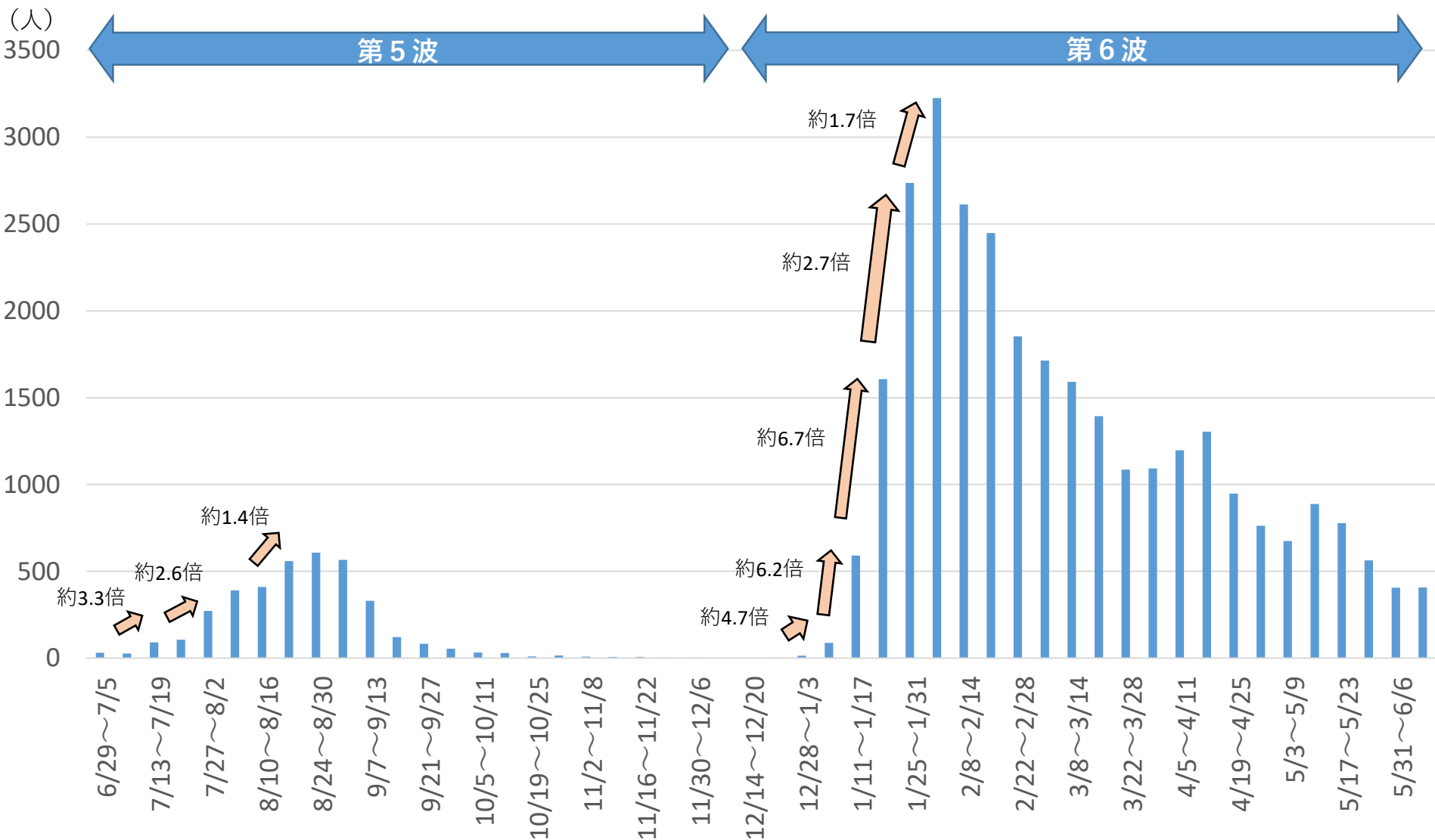
令和4年度吹田市医療審議会
令和4年（2022年）7月6日

吹田市の新規陽性者数



吹田市の新規陽性者数（7日間毎）

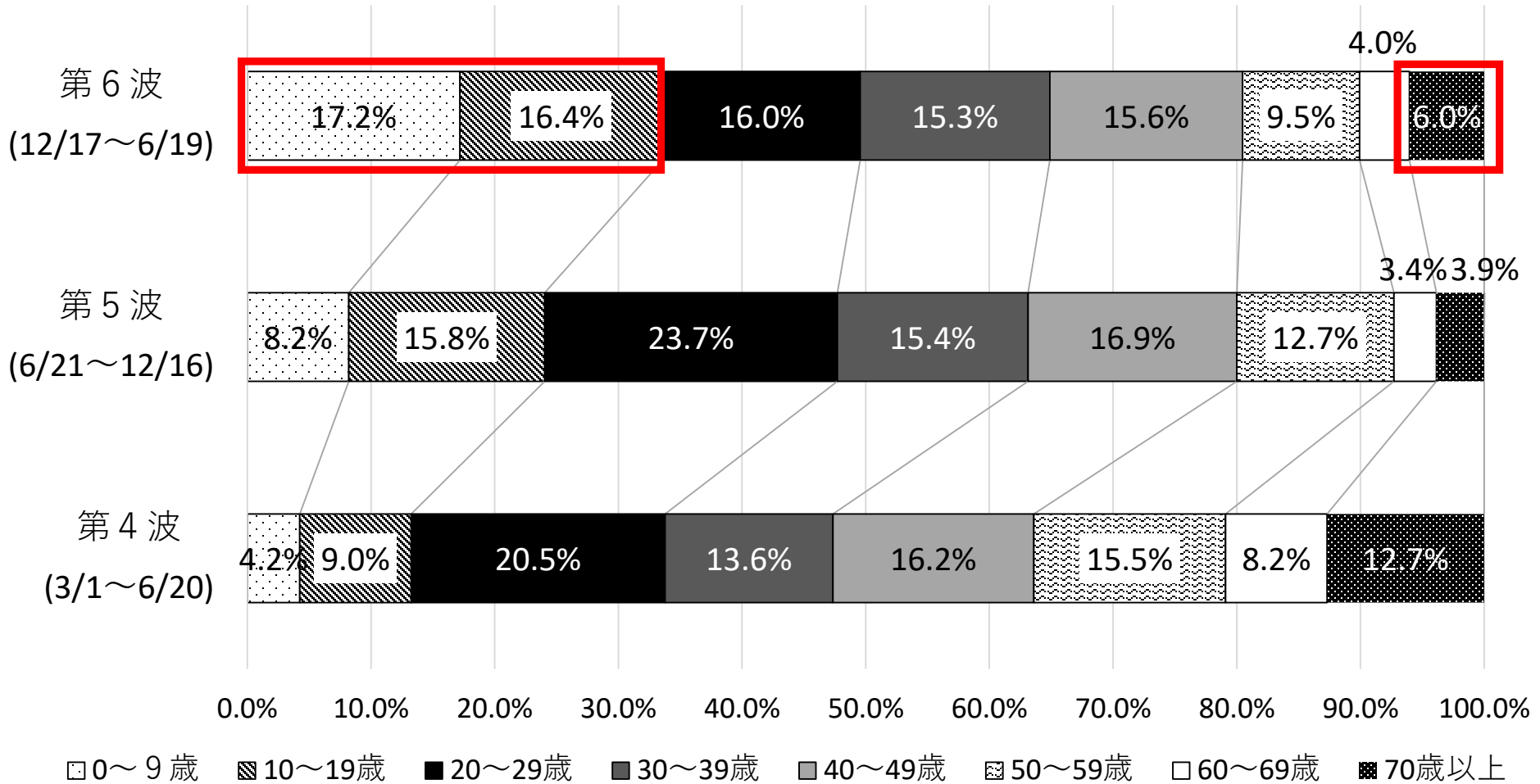
○第6波では第5波を上回る速度で新規陽性者が拡大していった。現在は減少傾向であるが、100名弱の新規陽性者が継続している。



令和4年6月21日時点

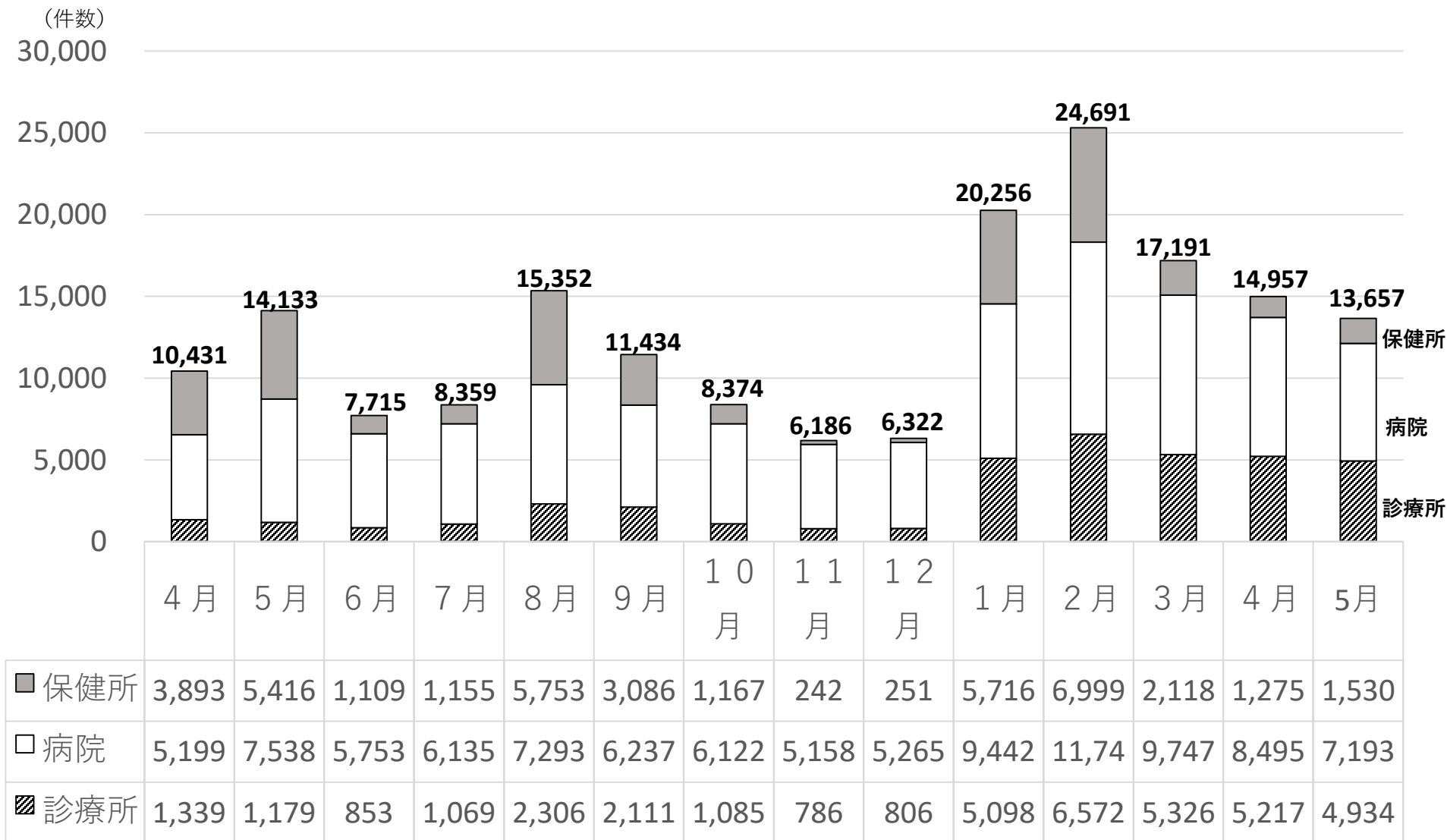
吹田市の新規陽性者数の内訳（年齢別割合）

○第6波においては、児童施設や学校でのクラスターが多く発生し、特に0～19歳の子どもの感染が目立っている。
 ○また、1月末頃から高齢者施設や医療機関等の大規模なクラスターも多発し、第5波と比較し、70歳以上の割合が高くなっている。



吹田市の月別検査件数

○令和4年1月18日に大阪府における保健所業務の重点化について方針が示され、保健所では重症化リスクの高い施設等への対応を優先的に実施している。1月頃から診療所での検査件数が増加している。



※ 無症状スクリーニングは除く。

吹田市内クラスター発生状況と院内感染対策連絡会議支援チームの派遣状況

- クラスターの発生は、発生地域の医療提供体制へ大きな影響を及ぼす。特に高齢者層のクラスターは、入院医療への負荷が高くなる。
- 第6波では、オミクロン株の感染力が強く、医療機関及び高齢者施設、障がい者施設で大規模なクラスターが多発した（**最大147人規模：医療機関**）。
- 支援チームの派遣については、第6波だけで31件にものぼり、現在も派遣依頼が続いている。

種類	クラスター件数					支援チーム派遣件数				
	第2波	第3波	第4波	第5波	第6波	第2波	第3波	第4波	第5波	第6波
医療機関関連			4	1	18	2(2)		3	1	8(1)
高齢者・障がい者施設関連	1	8	5	6	54	1(1)	11(4)	5(1)	2(1)	23(12)
児童施設関連				4	19※ ⁰					
大学・学校関連		4	2	7	5※ ⁰					
その他 (児童施設・企業・会食等)	1	1	7	12	4※ ⁰			1(1)		
合計	2	13	18	30	100	3(3)	11(4)	9(2)	3(1)	31(13)
1件あたりの最大陽性者数	8	25	64	15	147					

(令和4年6月21日時点)

第6波においては、保健所業務の重点化により重症化リスクの高い施設（医療機関・高齢者施設・障がい者施設等）を優先的に調査を実施
 ※1施設で5名以上の陽性者の発生があった場合をクラスターとする
 ※支援チーム派遣件数の（ ）内の件数は、クラスターが発生していない事案で予防的に派遣した件数を再掲
 ※⁰第6波では、1月29日から保健所業務の重点化により、高齢者施設・障がい者施設や医療機関以外の企業等で感染者が発生しても保健所による調査及びクラスター対応を行っていないため、未把握。

吹田市の医療機関関連のクラスター状況（第6波）

- 非受入病院は、クラスター発生病院の割合や陽性者数について、受入病院と比較すると占める割合が高く、特に陽性者数は受入病院の倍以上の値であった。
- 非受入病院は院内で陽性患者が発生すると感染が拡大し、大規模なクラスターへとつながっていることが分かる。

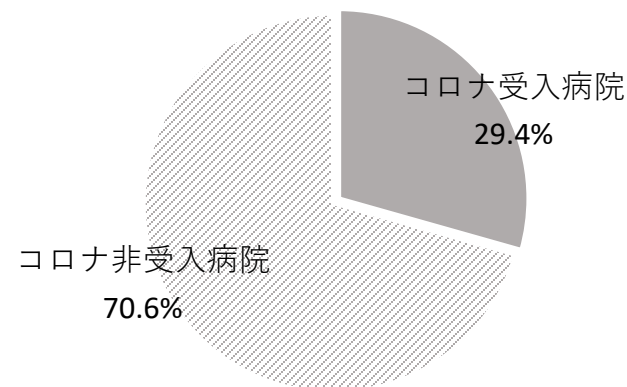
クラスター発生病院の割合 （コロナ受入・非受入別）

	病院数	クラスター 発生病院 (実数)
コロナ受入病院	9	7
コロナ非受入病院	5	4

※コロナ非受入病院のうち大阪大学歯学部附属病院は除く

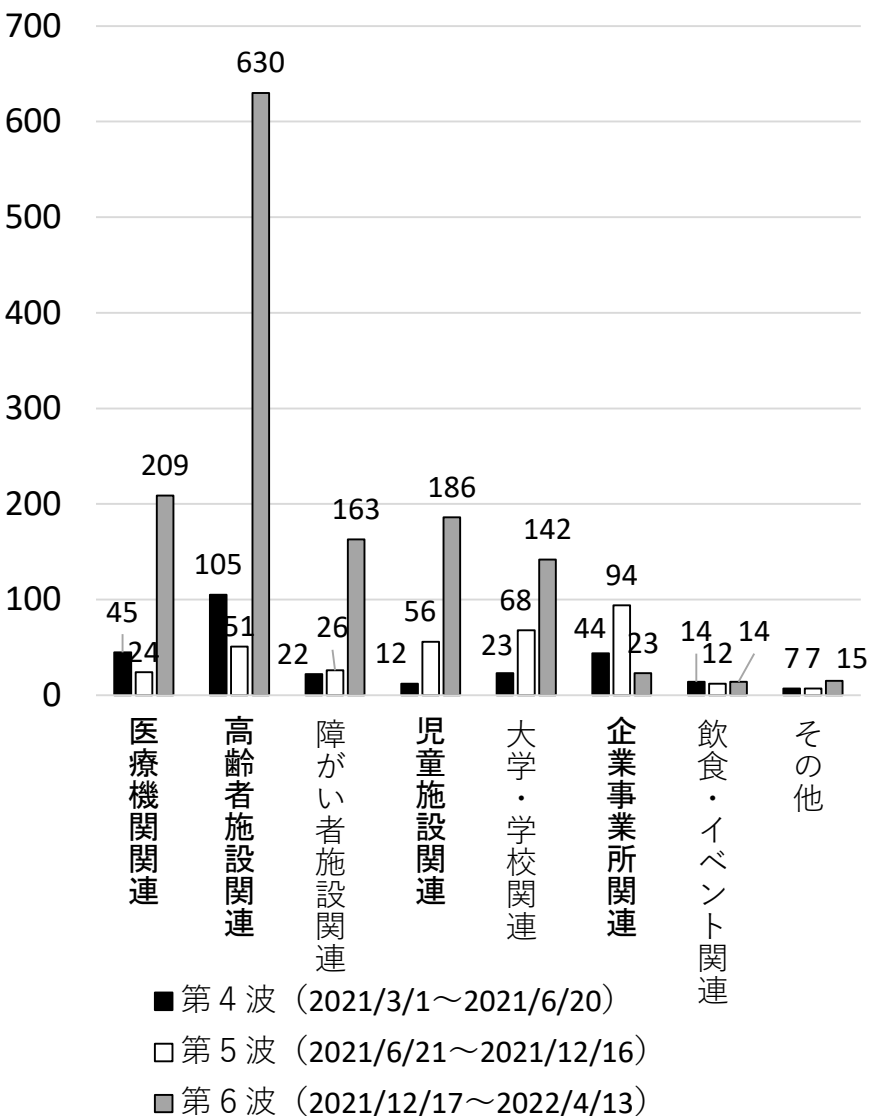
クラスター発生病院における陽性者数（職員含む） （コロナ受入・非受入別）

	陽性者数	病床数	陽性者割合
コロナ受入病院	114	3,863	2.95%
コロナ非受入病院	274	692	39.60%

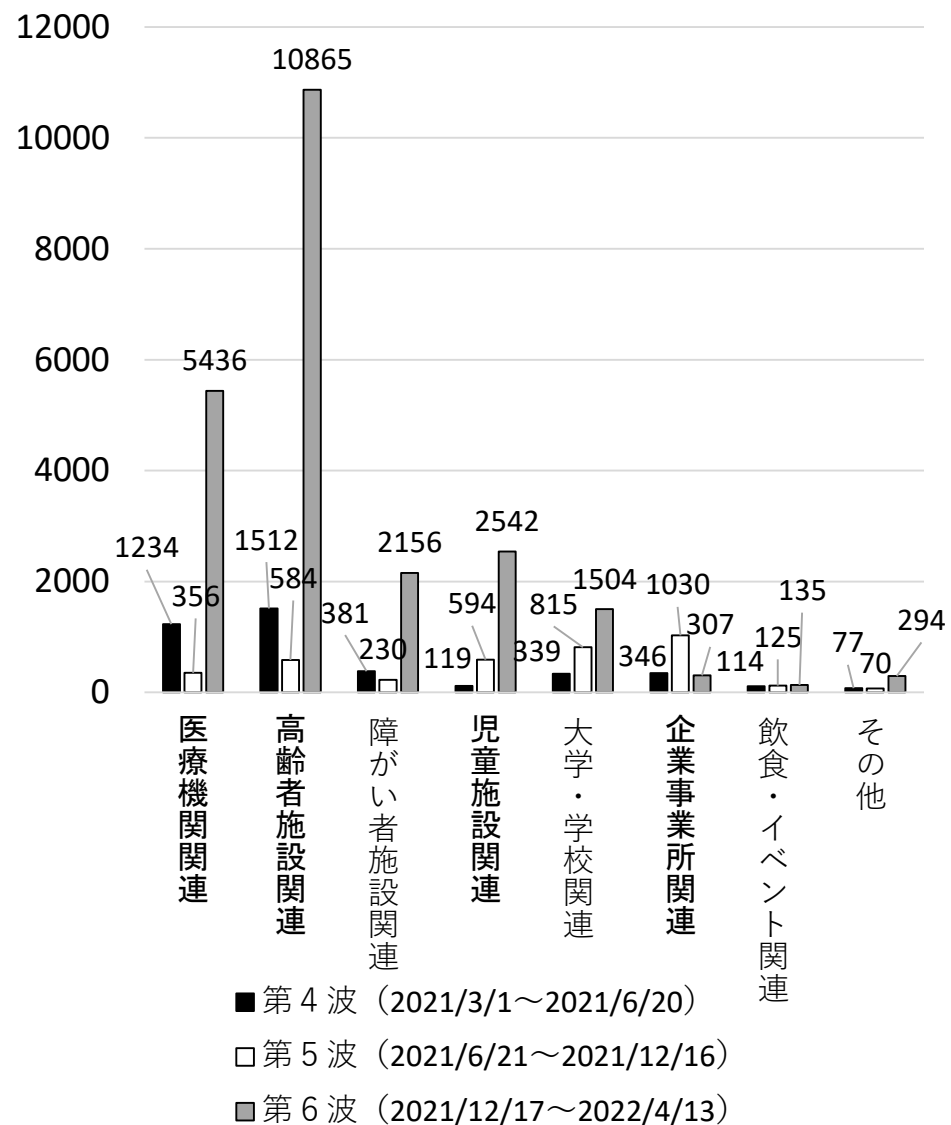


【大阪府資料】 第4波～第6波のクラスター状況（実数）

クラスターの施設数



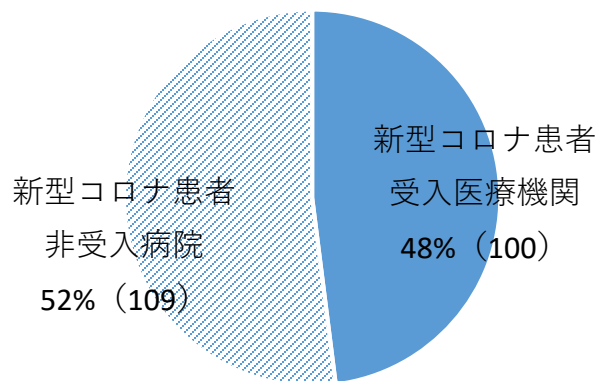
クラスターの陽性者数



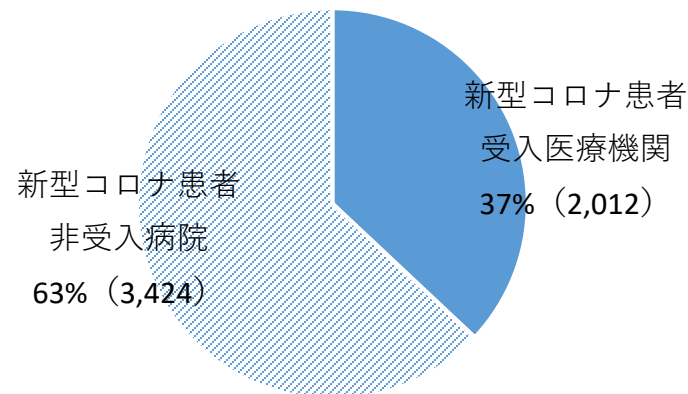
【大阪府資料】第6波の医療機関関連のクラスター状況

- ◆第6波における医療機関関連クラスターの発生数は、新型コロナ患者受入医療機関と非受入病院で各半数。
- ◆クラスターにおける陽性者数は、新型コロナ患者非受入病院が6割強を占める。
- ◆新型コロナ患者受入医療機関においては、病床数に対しての陽性者発生率が2割を超過している医療機関が1割強。新型コロナ患者非受入病院においては、同発生率が2割を超過している医療機関が4割弱

クラスター発生医療機関数
(新型コロナ患者受入・非受入別)

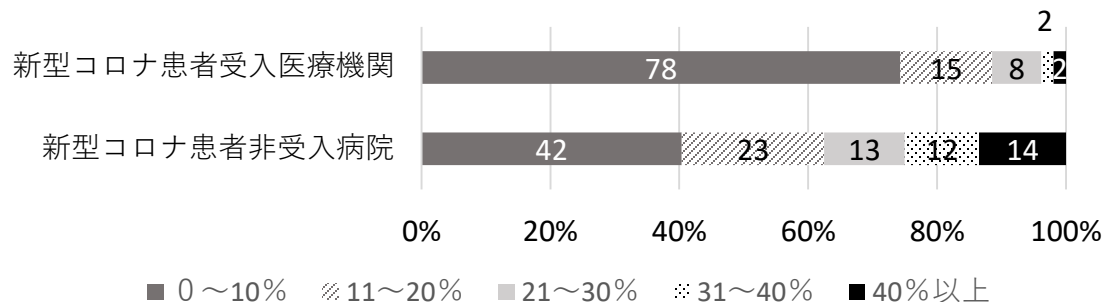


クラスター発生医療機関における陽性者数(職員含む)
(新型コロナ患者受入・非受入別)



※本府の病床確保計画に、確保病床として位置づけられた病床を有しない病院を「新型コロナ患者非受入病院」と表しています。

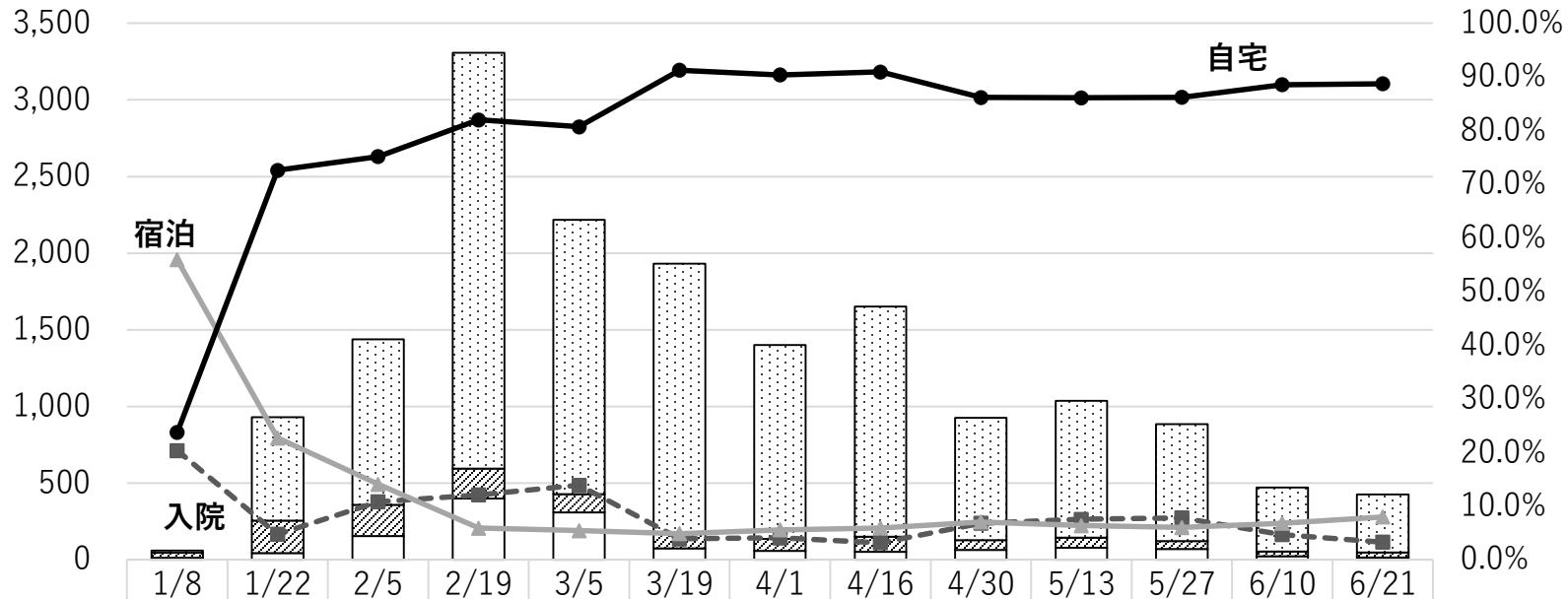
病床数に対しての陽性者発生率での比較(陽性者に職員含む)



※令和4年4月13日時点の保健所から報告に基づく

吹田市の療養先別療養者数及び割合（2週間毎）

○1月末、新規陽性者数の急拡大を受け、国及び大阪府の方針同様、保健所業務の重点化(※₁)を行っている。重症化リスクの高い方へ優先的に対応し、重症化リスクの低い方は基本的に自宅療養となったことなどから、自宅療養者の割合が大幅に増加している。最大自宅療養人数:2,712人(2/19)※₂



吹田市 自宅療養 人数	14	675	1,080	2,712	1,790	1,763	1,265	1,502	797	893	762	417	378
吹田市 宿泊療養 人数	33	211	202	195	120	94	78	98	65	66	53	32	34
吹田市 入院 人数	12	44	155	400	308	75	57	52	63	78	69	22	14
吹田市 入院 割合	20.3%	4.7%	10.8%	12.1%	13.9%	3.9%	4.1%	3.1%	6.8%	7.5%	7.8%	4.7%	3.3%
吹田市 宿泊療養 割合	55.9%	22.7%	14.1%	5.9%	5.4%	4.9%	5.6%	5.9%	7.0%	6.4%	6.0%	6.8%	8.0%
吹田市 自宅療養 割合	23.7%	72.6%	75.2%	82.0%	80.7%	91.3%	90.4%	90.9%	86.2%	86.1%	86.2%	88.5%	88.7%

※₁令和4年1月28日に大阪府における保健所業務の重点化について方針が示された。それを踏まえ、2月3日より重症化リスクがより高い方への対応を最優先とするため、発生届の内容を確認し、50歳以上の方、及び1歳以下の方、2～49歳の方のうち重症化リスクの高い方への対応を優先的に行うこととなった。また、3月7日より大阪府の方針に合わせて、65歳以上及び1歳以下の方、2～64歳の方のうち重症化リスクの高い方への対応を優先的に行うこととなった。

※₂第5波の自宅療養者の最大人数は301人（8/24）

（令和4年6月21日時点）

吹田市内の検査・診療体制状況

- 診療・検査医療機関は103医療機関が登録されているものの、かかりつけ患者以外も対応可能な医療機関や日曜・祝日に対応可能な医療機関は少ない。
- また、自宅療養者への診療体制についても、症状悪化時等の診療対応可能な医療機関数は外来診療20医療機関、往診11医療機関、オンライン診療15医療機関と少ない。

診療・検査医療機関（R4.6.15現在）

医療機関数	(内訳) かかりつけ患者以外		(内訳) 日曜・祝日		(再掲)	かかりつけ患者以外	
	可	不可	可	不可		可	不可
103	36	67	6	97	日曜・祝日	可 3	不可 3
						不可 33	64

※日曜・祝日等における新型コロナウイルス感染症の診療・検査体制の確保のため、大阪府による支援金制度あり。

自宅療養者への診療対応可能医療機関（R4.4.25現在）

	医療機関数	(内訳) かかりつけ患者以外	
		可	不可
外来診療	20	5	15
往診	11	3	8
オンライン診療	15	3	12

保健所を介さない陽性者へのファーストタッチ、健康観察、初期治療体制

登録医療機関数：56医療機関（R4.5.27現在）

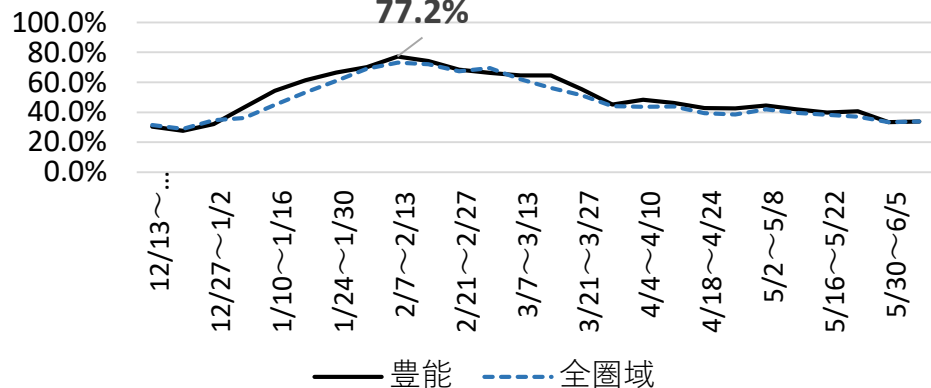
※陽性者への聞取調査（ファーストタッチ）、HER-SYS入力、初期治療を一括して実施（大阪府の委託事業）

豊能圏域における救急搬送患者の受入れ状況について（第6波）

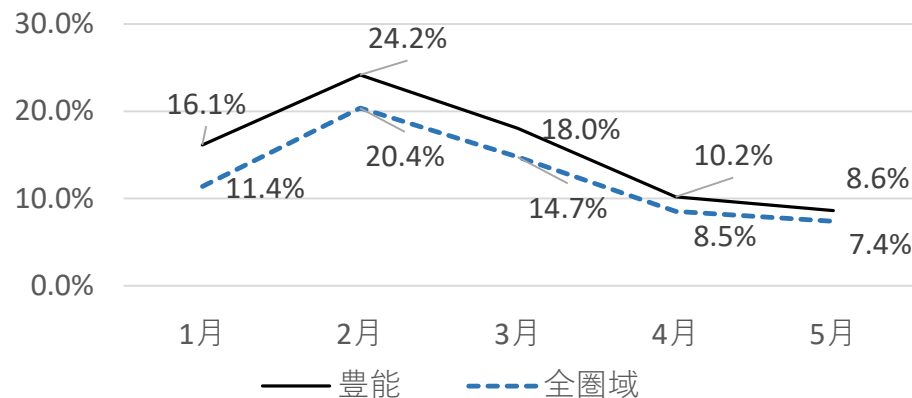
○感染拡大期には、不応需率7割を超えており、コロナのみならず、一般診療の受入れもひっ迫していた状況が分かる。

○搬送連絡回数4回以上、現場到着から病院到着まで60分以上の割合が大阪府全圏域より高い状況である。

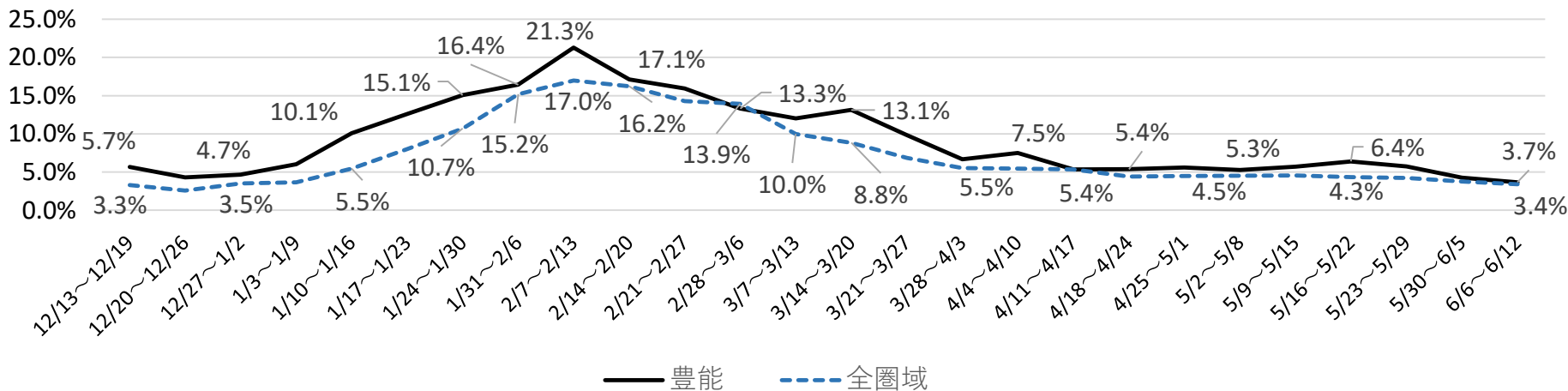
不応需率（週間毎）



2022年 搬送連絡回数 4回以上



現場到着～病院到着60分以上（週間毎）



【大阪府資料】 第5波と第6波における軽症入院患者の比較

- ◆ 軽症者の入院患者を第五波と第六波で比較すると、消化器科、循環器科、脳神経外科、産婦人科等、呼吸器科以外の診療科の疾患により、コロナ以外の緊急治療が優先される患者の割合は、第五波が7%、第六波は19%と増加した。
- ◆ コロナ陽性者でも、他疾患の緊急治療が必要な場合、コロナ確保病床やコロナ受入医療機関に限らず、全ての医療機関や診療科で対応が可能な医療体制が求められる。

● 軽症で新規入院した患者の内訳(元々基礎疾患で入院中の患者を除く)

	第五波	第六波	方向性
<input type="radio"/> <u>他疾患の緊急治療が優先され入院対象となった患者</u> ・ 救急対応 (脳梗塞、心不全、吐下血、急性腹症、骨折、脱水 等) ・ 他疾患等 (陣痛発来、脊髄損傷悪化 等)	7% (18人)	19% (43人)	原疾患の 診療科で対応要 (コロナの症状が 悪化した場合は コロナ確保病床へ)
<input type="radio"/> <u>コロナの治療のため入院療養となった患者</u> ・ 呼吸苦、高熱持続 ・ (第5波) 抗体カクテル療法目的	41% (106人)	6% (13人)	コロナ 確保病床へ
<input type="radio"/> <u>基礎疾患のリスク等を踏まえて入院となった患者</u> ・ 透析、妊婦、悪性疾患、精神疾患 ・ 高血圧、糖尿病 等 ・ 小児科 等	52% (135人)	75% (166人)	

※ 入院FCで調整した軽症入院患者のうち、自宅(高齢者施設を含む)・宿泊療養施設からの入院を集計。第五波:令和3年8月23日～29日(計259人)、第六波:令和4年2月1日～15日(計222人)。

吹田市保健所の主な取組について(令和3年度以降)

○新型コロナウイルスの病床確保や入院調整等、府内全体の医療提供体制の整備は大阪府が対応することとなっているが、入院医療以外の特に自宅療養者への医療体制について、市独自で以下の取組を実施。

医療提供体制の確保等のため関係機関会議

○新型コロナウイルス患者受入状況、医療提供体制について(R3.4.16)

自宅療養者への医療体制の整備

- 往診・訪問看護実施協力金事業(R3.5.18~)
- 訪問看護師による健康観察事業(R3.5.18~)
- 往診時等の酸素濃縮器配備体制の確保(R3.8.31~)

救急車の長時間待機への対策

○入院待機ステーションの設置(R3.8.31~R4.3.31)

診療所を含む医療機関対象研修会の実施

- COVID-19の重症化リスク理解・早期治療への対応促進について(R3.12.1)
- COVID-19の初期治療の更なる促進について(R4.4.7)
- 今後に向けた新型コロナ感染症対応強化に関する研修(R4.5.31)

診療所を含む医療機関向け通知

- 救急医療搬送困難事例多発に対する受入要請通知(R4.1.21)
- かかりつけ高齢者等が陽性となった場合の医療提供の協力依頼通知(R4.2.16)
- 診療所も含めた治療薬登録依頼通知(R4.3.2)
- かかりつけ妊婦に対する周産期医療提供依頼通知(R4.4.13)

吹田市保健所の主な取組について（令和3年度以降）

院内感染対策連絡会議

日付	参加機関	主な内容
R3.6.23（水） ※オンライン開催	管内15病院 吹田市消防本部 大阪健康安全基盤研究所	クラスター発生病院からの対応報告と支援チーム対応報告、院内感染対策及び院内体制の強化について 等
R4.2.3（木） ※オンライン開催		クラスター発生病院からの対応報告と支援チーム対応報告、院内感染対策及び院内体制の強化について 等
R4.4.26（火） ※オンライン開催		陽性者発生した病院からの対応報告、 非受入病院の含めたすべての病院でのコロナ診療 に向けて （感染対策強化と初期治療への支援）、 診療報酬改定（感染対策向上加算等）について

**“オール医療”による
医療提供体制**

管内全病院対象 新型コロナ机上訓練

○医療機関における大規模クラスターの発生を踏まえ、院内感染発生のシミュレーションについて、机上訓練を企画し、全病院で訓練を実施（初動対応、指揮命令系統などの院内体制のあり方等）。

高齢者施設等への施設内感染拡大防止に関する研修の実施

日付	対象	参加機関	内容
R3.12.24（金） ※オンライン開催	高齢者入所施設（特養・老健・有料老人ホーム・サービス付き高齢者向け住宅等）	基礎編：21施設（32名） 応用編：18施設（31名）	基礎編：標準予防策等（意見交換） 応用編：標準予防策のモチベーション維持、施設の実践報告等（意見交換）
R4.3.29（火） ※オンライン開催	高齢者入所施設	29施設（58名）	施設での初期治療について、クラスター発生施設からの報告、意見交換

【大阪府資料】新型コロナウイルス感染症に対する今後の医療・療養体制の考え方について

第六波を上回る感染拡大を見据え、オミクロン株の特性を踏まえた「オール医療」の体制構築をすすめる。

※R4.4.28国事務連絡：オミクロン株の感染拡大の状況を踏まえると、かかりつけ患者や入院患者がコロナに感染した場合にも、引き続き、かかりつけの医療機関、当該入院患者が入院している医療機関で受診できることが望ましいと考えられることから、地域の医療機関で感染管理措置を講じる体制を構築することが重要

「オール医療」の体制構築に向けた取組み

※この他、「第七波に向けた保健所業務の重点化・医療療養体制の強化の方針と取組」(R4.3.22)に基づき、取組みを推進

取組み① 診療・検査医療機関の充実

令和4年5月10日「新型コロナウイルス感染症大阪府検査体制整備計画【改訂第3版】」策定済

取組実績等

- ①診療・検査医療機関の指定増（目標：現指定施設含め約3,100施設・約10,000件の能力増）
- ②日祝体制の強化

- ①2,439医療機関・診療所（5/10時点）
- ※全医療機関に占める割合：府26%、全国34%（4/24時点）

取組み② 自宅療養者への治療体制の充実

取組済

- ①健康観察・初期治療を行う診療・検査医療機関の拡充、HER-SYS入力への推進
- ②かかりつけ医（外来）、往診医（在宅医療）による初期治療や訪問看護師による健康観察の実施
- ③自宅療養者がアクセスできる医療機関（外来診療病院、往診医療機関、オンライン診療など）の充実

- ①1,151医療機関・診療所（5/13時点）
HER-SYS入力率71.4%（5/8時点）
- ②③ 診療・検査医療機関のうち、自宅療養者等への診療を行う医療機関（5/13時点）
コロナ診療 641、外来抗体治療 193 等

取組み③ 病床確保・医療機関での備えの充実

- ①感染急拡大時に備えたさらなる病床確保を受入医療機関に要請
- ②全病院に対し、自院患者が陽性となった場合の治療継続を要請し、そのための感染管理病床の備えを依頼
- ③確保病床を有しない病院に対しては、感染対策や治療にかかる支援体制を構築

- ①今後の取組み【資料4-2】
- ②3/18要請済＋今後の取組み【資料4-2】
- ③新型コロナ患者非受入病院連絡会議開催(4/5)
保健所圏域ごとに感染対策支援体制構築に向け取り組み中（研修会、個別支援等）

取組み④ 高齢者の療養体制の充実

- ①要介護高齢者に対応する医療施設・病床の整備
- ②治療体制の強化や往診医療機関による往診体制の強化
- ③高齢者施設でのコロナ治療に対応できる協力医療機関の拡充

- ①今後の取組み【資料4-2】
- ②往診協力医療機関 119機関
- ③協力医療機関を確保している施設数 約3割(4/1時点)
⇒52.2%（5/16時点）

医療体制に関する今後の課題

○院内感染対策

第6波では、医療機関関連クラスターが極めて多く発生し、特に、非受入病院では大規模なクラスターとなった。

→更なる院内感染対策の徹底と院内発生を想定した体制整備、早期治療の実施が必要。加算1病院を中心とした感染対策支援のネットワークの活用。

○診療・検査医療機関

かかりつけ患者以外も対応可能な医療機関や日曜・祝日に対応可能な医療機関が少ない。インフルエンザの流行も危惧される。

→かかりつけ医を中心とした更なる検査体制の拡大が必要。

○自宅療養者への医療体制

症状悪化時等の診療体制が不十分であり、特にかかりつけ患者以外も対応可能な医療機関が少ない。

→検査・診断から治療まで、かかりつけ医を中心とした更なる診療体制の確保が必要。

○救急搬送体制

一般診療も含め、不応需率や搬送困難事例が増加。コロナ軽症でも他疾患の緊急対応を要する事例(脳梗塞・吐下血・急性腹症・骨折等)の受入が難航した。

→コロナ受入医療機関に関わらず、全ての医療機関(診療科)で対応可能な医療体制が必要。